夢 駒澤会だより
第２４号
２０１５年１２月１８日
駒澤大学駒澤会発行

会長挨拶

駒澤会会長　　森 屋 正 治

皆様には平素より駒澤会に何かとご高配にあずかり感謝と御礼を申上げます。

本年は二月の渋谷セルリアンタワーに於いての新年賀詞交歓会、五月の委員総会、六月のはとバスによる初夏の親睦会、八月の新橋亭での教育後援会との懇親会、そして十月の奥多摩水香園で、池田魯参総長先生による禅仏教と建学の理念の講演をしていただいての秋の一泊研修会が開催されました。その都度、総長学長先生をはじめ大学当局関係者、教育後援会の皆様、同窓会又、駒澤会会員の皆様方には、御多忙の中を万障繰り合わせての御参集を賜わり誠に感謝に耐えません。

特に本年度の委員総会に於いては、永年会員各位に御心配を戴いた有価証券に関する基金管理の問題を解決致した事の報告と、駒澤会の行く末を鑑み、会員の増強を念頭に入会がしやすく又、活動が有意義に出来る様役員会の提案により、規程の改正を御承認戴く事が出来ました。今後共、皆様方の御協力御支援で一人でも多くの学生に奨学金の授与は勿論の事、会員が参加して良かったと云われる様な活動を続けてまいりたいと願っております。

最近の世の中の流れでありますが、希薄な人間関係で人本来の生き方に相反する事が多くみられ、各々百人いれば百人の正義があり、相入れない考えの横行が目立つ昨今ではないかと思惟しております。駒澤会では駒澤大学の御縁で、会の趣旨に御賛同戴き入会され各行事等を通じての方向性の一致をみて活動出来た事に一つの纏まりがあり、今後共真の語らいが出来る会員の集まりの中、人生の研鑽を積み重ねる事が出来るのではないかと思うのであります。

委員一同で入会案内デザイン等の見直し、卒業式での入会勧誘活動等を継続しており、駒澤会へより多くの方に入会していただけるよう協力し合い、知恵を出しあっております。皆様方からも忌憚の無いご意見を頂戴できれば幸いに存じますし、一人でも多くの方々に入会を勧めて頂く様御願い申上げます。

結びに、平穏で慈しみと和みのある世の中が、今以上に広がって行く事を願い、平成２４年に開校１３０周年を迎えた駒澤大学の発展は基より、皆様方が御健勝で御活躍あらん事を念じ申上げ御挨拶と致します。

奨学金授与式について

総　　額：５００万円（一人２０万円×２５人）
目　　的：学業奨励
対象学生：学部２年生以上

昭和５７年に、「駒澤大学駒澤会奨学金給付規程」が制定され、駒澤会奨学金が誕生し、現在は２０万円×２５人、年間５００万円を給付しております。

平成２７年７月に駒澤会奨学金授与式が廣瀬学長、森屋会長、田中副会長が出席のもと行われました。

学長より、駒澤会へのお礼が述べられ、学生達へ、「この奨学金は、会員皆さんの気持ちが込められています。ますます勉学に精進して、将来の大きな糧として頑張っていただきたい。」と激励の言葉がありました。

また、森屋会長より駒澤会の紹介があり、学生達への祝辞が述べられ、奨学金決定通知書が学生ひとりひとりに手渡されました。

授与された学生達も「感謝の心を持ち、将来役に立つよう努力し、頑張って参ります。自分の努力が評価されて嬉しいです。」と述べていました。

奨学金を受給された代表３人の決意と感謝の声を掲載します。駒澤会で応援を続けていくことの原点を再認識し、今後も協力しあいましょう。

受給生の言葉

文学部社会学科
４年　谷口　真彦

私は幸運にも、多くの尊敬できる人たちに出会い、影響を受けてきました。必ずしも希望の進路先ではなかった駒澤大学で、「力を発揮しろ」と言ってくれたかつての恩師もその一人です。結果的に三年間、駒澤会奨学生に採用していただけたことで、約束を果たすことができたとほっとしています。

大学とは、自らの知的好奇心に従って貪欲に知識を吸収し、世の中にある諸問題を解決する能力を身につける、または役に立つかどうかは疑問であっても、突き詰めることによってかけがえのない真理を見出す、そういったことが許される場所であると考えています。そのような自由さのある一方で、矛盾を感じる瞬間もなかったわけではありません。数値に現れる成績のために、興味の少ない分野にも全力で取り組むことは大学受験の点取りゲームから脱せていないということではないのか、自分の努力は膨大な無駄なのではないか、本当に優秀であるとはどういうことかと悩んだこともあります。

しかし、そんなことは杞憂でした。様々な学問に触れ、幅広い教養を身に付けたことは、自分にとって素晴らしい財産ですし、他人から評価されることは、新たな知を求める原動力にもなりました。その過程で出会った友人や先生方との「縁」も、予想もしないような展開を生み、人生の豊かさを実感するきっかけとなりました。学科の先生に誘われた海外研修は大変感銘を受けた出来事のひとつです。

私が四年間の大学生活で気づいたことは、理論と実践、つまりインプットとアウトプットをバランスよくおこなうことが重要だということです。駒澤大学の建学の理念である「行学一如」も同じことを言っているのではないでしょうか。自分の中でこのバランスを良い状態に保ち、世の中に対して影響を与えることで、人から尊敬されるに値する人間になりたいと思います。

最後になりますが、駒澤会奨学生を支えて下さる駒澤会の方々、並びに大学関係者の皆様に心からお礼申し上げます。学問を追及したいと努力する意欲ある学生を支援するためにも、なお一層、このような制度が充実することを願います。

受給生の言葉

ＧＭＳ学部ＧＭ学科
３年　土田　穂里

この度は、駒澤会奨学金に採用して頂き、誠にありがとうございます。昨年度の私の勉学の取り組みを、このような形で評価して頂いたことを大変光栄に思うと共に、非常にうれしく思います。

私がグローバル・メディア・スタディーズ学部の入学を希望した理由は二つあります。まず一つ目は、英語力を向上させたいと思ったからです。この学部ならではの英語の授業で、私は特に話す力と聞く力の習得に励みました。そして大学2年生の夏にアメリカへ短期留学に行き、これまでの成果を試すことが出来ました。現地での経験を通じまだまだ足りない部分があり、また自分自身の弱点についても多くのことを気付かされました。これらの苦手分野を重点的に磨き上げ、語学もそして人としても成長した上で、再度挑戦したいと思います。二つ目は、この学部では語学やITだけでなく、幅広く物事を学ぶことが出来ると感じたからです。大学生活が始まった当初は、学業との両立に悩むこともありましたが、目標を達成したときに得られるものは、非常に意義のあることばかりでした。各教科について、新たな知識が蓄積されていくことにより、物事を多面的に見られるようになりました。また、問題に直面した時、まず複数の方法を提示し、それぞれ状況に適したものを選択することで、効率よく解決していくことを心掛けるようになりました。今回の奨学金は、このようなことを継続していった努力が実を結んだように思います。

現代社会は目まぐるしいスピードで成長し、その中で衰退と誕生を繰り返しています。この変化に対応していけるような柔軟性と広い視野を持ち、これまで学習してきたことを社会で活かして参りたいと思います。

今回、この駒澤会奨学金に選んでいただいたことに心から感謝しております。そして、奨学生としての自覚を持ち、これからも勉学に励み、残りの大学生活一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

受給生の言葉

文学部国文学科
２年　小山　由梨香

この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度の私の学業の成果をこのような形で評価していただきましたことを、非常に光栄だと思うと同時に身が引き締まる思いがいたします。

昨年度は大学入学と共に親元を離れ、初めての一人暮らしに右往左往する日々を送っていました。新しい環境の中での生活において、身体面・精神面ともに負担を感じることもありましたが、全ての経験は今の私を形作る貴重な糧となりました。

どのようなことに対しても「最大限の力を出す」「納得のいくまでやる」ことが私の信条です。二年次に進学し専門的な講義が増え、かねてより自分が強く学びたいと感じていた国文学の分野の勉強ができることに感謝しつつ、学習設備の整ったこの環境で国文学を勉強できる喜びをひしひしと感じています。学びたいと思える分野だからこそ、常に探求心を持つことを忘れず、より一層細やかな学習をしたいと思います。

また、私は語学に対しても強い学習意欲を感じています。今年の夏季休業に参加したセミナーにおいて、多国籍の対人関係における語学コミュニケーション能力の重要性を痛感しました。それ以来、英語と中国語のスキルアップを目標としています。加えて日本という範囲に留まることなく、世界に目を向け広い視野で物事を捉えることを大切にしていきたいです。

今回の駒澤会奨学生の採用は、私にとって大きな自信へと繋がりました。今抱いている感謝と自信は、いかなる時でも私の背中を強く押してくれる原動力となることでしょう。自分が今いる環境に感謝することを忘れず、自分が目指すものに妥協することなく突き進み、これからも日々精進・鋭意努力していく次第です。

教育後援会との懇親会報告

広報部副部長　松浦 雅人

平成 27 年 8 月 27 日夕刻、JR 新橋駅前の新橋亭にて駒澤会と教育後援会による恒例の親睦会が開催されました。開催に先立ち、森屋会長より今後もより良い学園創りを目指して、一緒に手を携えて頑張りましょうという旨のご挨拶があり、また吉田教育後援会副会長からも同様のご趣旨のご挨拶を戴きました。その後、一戸副会長による乾杯のご発声を戴き、懇親会がスタート致しました。懇親会では駒澤会役員と教育後援会役員との親睦を深めることはもちろん、出席者同士の近況報告等でも盛り上がり、終始活気あふれる会となりました。

懇親会終了に至っては三崎副会長からのご挨拶を頂戴すると共に、堀厚生部委員（前教育後援会会長）による即興の〆も見事に決まり、親睦会を無事終了することが出来ました。

一戸隆男副会長が世界ビルサービス連盟会長に就任

一戸隆男副会長がニューヨークで開催された第 20 回世界ビルメンテナンス大会で世界ビルサービス連盟会長に就任しました。そのため、駒澤会有志メンバーで 11 月に御祝会を開催いたしましたことをご報告いたします。また一戸副会長から、天皇、皇后両陛下主催の春の園遊会（平成 27 年 4 月）に招かれた際の記事を頂戴しましたので、掲載いたします。

世界ビルサービス連盟会長就任御祝会にて

春の園遊会にて

「春の園遊会」に招かれて

「天皇皇后両陛下には来る 4 月 21 日赤坂御苑において御催しの園遊会にお招きになりますのでご案内申し上げます　平成 27 年 3 月 20 日　宮内庁長官　風岡典之　一戸隆男殿　同令夫人」。超厚手の大きな封筒に入った豪華な招待状が届きました。私にとっては平成 20 年秋に続き 2 度目のお招きですが、それでも緊張のひと時。「謹んで出席させていただきます」とお使いの方に頭を下げる。

当日、私はモーニングコート、妻は訪問着姿で、午後 1 時半頃、指定された東門から入苑した。

この日招かれたのは約 2200 人。昨年ノーベル物理学賞を受賞した赤崎勇氏、天野浩氏、中村修三氏や、東日本大震災で被災した三陸鉄道の望月正彦社長、俳優の津川雅彦氏、プロゴルファー樋口久子氏らの顔も見られた。美しい若葉が映える赤坂苑内をそれぞれ自由に散策し談笑する。制約は全くない。数カ所に設けられたテントには、料理が並ぶ。食材は皇室専用の「御料牧場」で育てられたものだそうだ。もちろん、飲み物も揃っている。そして色々なデザート。雅楽や吹奏楽の音色が心を和めてくれる。演奏者は全て正装で格調高い演奏が続いた。

午後 2 時 10 分、天皇皇后両陛下と皇族の方々がお見えになると苑内は一気に静まり、ピーンと緊張の糸が張る。さすがに、世界に冠たる日本の象徴で、日本人にとっては絶対的な存在。全ての人が深い敬愛の心を持つ。日本国の長い歴史と伝統の素晴らしさを改めて痛感した。

思えばインターハイ柔道重量級で優勝して拓殖大学へ進み、柔道部主将も努めた私は、卒業後、数々の大手企業の誘いを断って、ビルメン業の修業を 8 年間勤めた後、30 歳で家内と 2 人でビルメンテナンス会社を設立して以来、36 年たった今、自分がこの場にいることが不思議な気がするし、半生を振り返りながら熱い感慨を覚えた。私は「安全と衛生はその国の文化を計る物差しである」との信念を持っている。東京オリンピック、パラリンピックを控え、ビルメンテナンス業界の責務は益々大きくなる。私はそのリーダーとして最大限の努力を続けたいと思っている。

宮中伝統の菓子「菊焼残月」を頂いて帰路についた私の胸に、こんな思いが強く去来した。

駒澤会・秋の研修会にふれて

総務部　堀内 和代

平成 27 年 10 月 3 日（土）～4 日（日）「松の温泉 水香園」において秋の研修会が行われました。

駒澤会には、今年の春に入会したばかりの新人なので、大先輩方の中で不安でどきどきしながら参加しました。

奥多摩に行く事は初めてでしたが、なんとなく奥多摩はいいよと聞いていたものの、東京にもこんな素晴らしいところがあるとは、空気もおいしく緑と土の香り、川のせせらぎの音、自分の五感を揺さぶられる、すごくいい体験でした。

講師の池田魯參総長

研修と懇親会は、水香園の中の、外の景色が一望できる部屋で行われました。

研修では、池田魯參総長が講師をしていただいた事にびっくりです。内容は「禅仏教の原景―建学の理念に寄せて」でした。むずかしい話だろうと思って緊張して聞いていました。

案の定むずかしい内容でしたが、素人にもわかるようにお話をしてくださり、できの悪い私でも理解できるものがありました。それはダルマさん（菩提達磨）、あの七転び八起きや選挙の最中に使われているダルマさんの話で、南インドからダルマさんが伝えたもので、ダルマさんが中国にやってきて仏教の原形となる 1 日 4 回の座禅をどんな事があろうとも、亡くなるまで、きちんとかかさず続けたことでした。

池田総長の講義を熱心に聴く参加者

何でも、根気よく無理しないで続ける事が大事なんだと、頭ではわかっていても、改めて認識させられました。そして、池田魯參総長の余談の中で、今年度、駒澤大学に入学した欽ちゃんこと、萩本欽一氏との話がありました。欽ちゃんは 74 歳で大学に入学した事もすごいことですが、「明日、大学に行ったら会える人がいる。明日、する事があるのは幸せな事です」この話を聞いて、感激してどこか駒澤会に通じるものを感じました。

松の温泉 水香園の四季亭

研修の後は、懇親会が行われ、和気藹々と楽しく過ごせて、食事も美味しく、二次会ではお酒が飲めない私も、心地よく酔うことができました。

また、この水香園は、皇太子ご夫妻もお泊りになられた旅館との事で、皇太子ご夫妻が泊まられた部屋を拝見しましたが、私達が泊まった部屋と何ら変わることなく、質素な部屋だったのが印象的で、皇太子ご夫妻の人柄と、この山奥の自然が一致しているように感じました。

2日目は奥多摩を散策する人、帰る人と、自由に別れましたが、雲一つない晴天に恵まれ、奥多摩と駒澤会の研修会を満喫して帰路に着きました。

この研修会を企画して下さった、厚生部の皆様はじめ、ご助力いただいた先輩諸氏に感謝致します。次の企画も楽しみにしております。

皇太子殿下御夫婦宿泊記念碑

参加者全員での集合写真

会員紹介　堀　純一郎さん

今回は前教育後援会会長の堀純一郎さんを紹介します。
現在は駒澤会厚生部で活躍されています。

出身地・経歴は？

１９５９年２月１２日佐賀県鳥栖市で生まれ、父の転勤で、小学校は３校、中学校も３校に通いました。１３歳で親元を離れ鹿児島の祖父母のところで過ごしました。料理人になりたかったけれども、親の気持ちを考えて普通高校に進学。鹿児島県立甲南高校へ。先輩は西郷隆盛、青色ＬＥＤでノーベル賞を受賞した赤崎勇氏、忠犬ハチ公像を彫像した安藤照、NHK五つ子の山下夫妻。
大学は九州大学へ。工学部電気工学科だが人口知能を専攻。卒業時はメディアに進みたくて地元の九州朝日放送を、カメラマンで受けるが不合格。４年生１０月にまだ募集していた大日本印刷を受験したところ合格し上京。本社研究開発推進本部で新規事業開発を担当。電子出版の事業化を推進。日経の記者の取材を受けるようになり面白そうで朝日新聞の求人公告をみて応募し日経ＢＰ社に合格。通信系の雑誌「日経コミュニケーション」の記者、副編集長を経て３６歳で日経マルチメディアの編集長に。その後、映像プロデューサー、イベント事務局長、インターネットサイト編集長を経て、現在は日経ＢＰコンサルティングのビジネスイノベーション・ラボ所長。市場調査を通して、企業・団体の新商品開発、新規事業開発、広報・マーケティングを支援しています。

小学６年、運動会の応援団長

高校時代、体育祭での仮装行列（赤い頭巾が堀さん）

趣味は？

交流会の幹事。高校同窓会の幹事、ビジネス交流会銀座電脳倶楽部代表。踊り、ゴルフも。「感動コーディネータ」としてみんなを喜ばせる事が生きがい。
浴衣を着てほぼ毎年渋谷・おはら祭りに出ています。
渋谷１０９を基点に道玄坂で踊ると気持ちがよい。

渋谷・鹿児島おはら祭（渋谷・道玄坂）2000 年頃

帯を締めて皆で踊ればまさに連帯感、アドレナリンが出ます。浴衣を着て踊るのは、ハード過ぎず適度な運動で、ストレス解消にもなっています。仕事で記事を書いたり人前で話したりもし、たまに新聞やネットに顔を出すこともあります。また、ネットとモバイルの進化、ソーシャルマーケティングに興味があります。自称“感動コーディネータ”として、皆さんが「人生楽笑」になれば、嬉しい限りです。

社内野球大会で、選手兼監督補佐を務め優勝した最高の瞬間（３４歳頃）

好きな言葉は？

「二度とない人生だから」
「好かれるより好きになるほうが美しい」
「仕事でカラダを壊すなんて、大馬鹿もののすることだ！」（櫻井孝至氏）
「流汗悟道」（永平寺の高僧の言葉）
「天空に大きな円を描き、その一片の狐とならん」（英国の詩人、ロバート・ブラウニング）

日経 BP 社主催展示会の事務局長時代（４０数歳）

教育後援会の会長時代、福岡県支部総会にて（２０１４年７月）

駒澤会に入った理由は？

駒澤大学で一緒に活動した人達で構成されており、ご縁を切らせたくないので入会しました。
また、会費が学生の皆さんの活動に役に立てるのであればと思いました。

最後にメッセージをお願いします。

生きているだけで、楽しい日本に
～縁の下の感動コーディネータを目指します～

～～～　インタビューを通して　～～～

堀さんの人生は、自分の生きがいを持ち、人にも喜びを与えようとする生き方で感動しました。
明るい楽しい人柄で皆を引っ張ることのできる人物だと思います。
インタビューの時間があっという間でした。

インタビュア・・・荒井、川岸、藤田、赤堀

◆◆平成28年度から駒澤会が変わります◆◆

平成２７年５月２３日（土）に行われました駒澤会委員総会において、駒澤会会則、駒澤会会員規程等の改正案及び、奨学金支給額の減額が承認されました。そのため、新規程が改正施行される平成２８年４月１日から駒澤会会員の皆様には以下の点が変更となりますので、予めご理解いただき、今後とも駒澤会活動にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

変更点①

●会員種別の変更

賛助会員と維持会員の区別がなくなり、会員として一本化

※会員の種類が２つあるとわかりづらいとの言葉を多くいただいたため、会員の区別をなくします。これにより、入会募集時に駒澤会の会員活動内容が明瞭化され、新規入会者数の変化を狙っています。

変更点②

●年会費の変更

毎年度お支払いいただく年会費が５，０００円から１０，０００円に変更

※会費増額は、駒澤会の広報活動、研修会など各種事業活動の充実、また会員の活動意欲の啓発を目的としています。

変更点③

●奨学金支給額の変更

支給額を５００万円（２０万円×２５人）から４００万円（２０万円×２０人）に変更

※駒澤会基金が年々減少しており、奨学金原資となる駒澤会基金を確保し、駒澤会を維持していくために止むを得ず奨学金を減額することといたしました。

訃報

永年にわたり駒澤会維持会員としてご活躍頂いた田邊隆子氏がご逝去されました。

田邊氏は厚生部委員として平成１８年度から平成２２年度まで副部長、平成２３年度から平成２４年度まで部長を務められ､駒澤会に多大なるご尽力をいただきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

各部入部のお誘い

会員の皆様へ

会員としてご登録頂いている皆様に、各部への入部をお誘いしています。
会の運営を３つの部に分かれて担当して頂くことになりますが、近郊の方又は遠方でも
２～３カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。
皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局：岡田までご一報ください。
ＴＥＬ：（０３）３４１８－９１８９　　ＦＡＸ：（０３）３４１８－９１９０

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やＰＲ活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所など考え活動しています。

基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして　会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	４月～１１月までの利金	備　考
みずほ銀行	２５，３０４円	定期・普通預金利息
世田谷信用金庫	６，２５０円	定期・普通預金利息
合　　計	３１，５５４円	

基金管理委員長

編集後記

今年も残り僅かとなりました。酷暑の後の大雨、洪水、火山の噴火、マンションデータ偽装などのニュースは私たちの生活を脅かすものばかりでした。

ここにきて、ラグビー日本代表の活躍や、男子体操の金メダル、フィギュアスケート羽生結弦選手の世界歴代最高得点といった明るい話題にやっと私たちも顔をほころばせることができました。

若者の活躍はどんなシーンであっても我が子のことのように嬉しく感じます。東京オリンピックという目標が目前に控えているせいもあり、様々な競技に国が力を入れ始めています。

力を入れるということは、お金もかかるということです。これはどの世界でも同じだと思われます。

そう言えば、昨今ノーベル賞受賞者が多いのは、戦後教育に力を入れていた時代の賜物とか。

駒澤会の奨学金もやがて花開く若者たちへの投資と、わくわくした気持ちでこの編集後記を書き終えました。

広報部　齋藤　和子

事務局からのお知らせ

大学行事予定

１２月２５日～１月５日　冬期休業（全学休業）
２月４日～８日　２月一般入学試験
３月７日　３月一般入学試験
３月２３・２４日　卒業式（会長出席）

駒澤会行事予定

１月　３日　箱根駅伝応援企画
１月２３日　役員会
２月１４日　駒澤会新年賀詞交歓会
３月１２日　役員会

駒澤会だより　第24号

発行日：平成27年12月18日
発行者：駒澤大学駒澤会　広報部
154－8525　世田谷区駒沢 1-23-1
TEL：(03) 3418－9189
FAX：(03) 3418－9190

駒澤会ホームページ＜駒澤大学ＨＰ内＞
https://www.komazawa-u.ac.jp
→　在学生父母の方をクリック
→　駒澤会をクリック

駒澤大学
駒澤会